

指導者の記述

★野球人口の減少について

★保護者の負担が大きいことに対するご意見

- 野球をすると保護者がたいへんだというイメージが定着している。
- クラブ内での保護者の役割が多い。
- 大会での保護者の負担が大きい。
- 部員が少なく、保護者の負担が増している。
- 共働きで保護者が選手をサポートしにくい時代である。

★協議会に対するご意見

- 合併や合同チームは、少年野球人口減少の大きな要因と思われる。各クラブの努力が一層必要ではないか。
- 塁審の服装はジャージ、チームの帽子でもOKとし、もう少し規則を緩めてほしい。
- 大会などでの役割が非常に多い。4審判制にもどしてほしい。
- 審判の服装や打球の追い方等にこだわると、野球に詳しくない親の理解を得られにくい。

★用具の高騰に対するご意見

- バットが1本4～5万円ほどし、飛距離をお金で買っている状態になっている。

★その他

- 習い事等の多様化、いろいろなスポーツ競技の選択肢の幅が広がった

- 保護者の中にも、選手への暴言や指導者に対する批判がある。

★選手やチームの課題に対するご意見

- 少年野球は、子供が最初に知る野球であり、野球が好きでいられるかどうかが決まる大切な時期。指導者は、子供たちが野球が好きで中学高校とつなげていけるような指導方法を目指している。
- 指導者に対し、保護者は勝ちたい、もっと練習してほしいと思う人たちがいる。勝利を求めることも大切なことであると思うが、保護者と部員が楽しく野球に携わることができる、一つになれるチーム作りをしていくことが課題である。
- 子どもの精神面、体力面がひ弱くなっていると感じる。最近の子どもは注意された事で気に入らないとすぐスネル。こちらも感情的にならないよう細心の注意を払っている。「ハイ」という返事や「こんにちは」「ありがとう」のあいさつ。素直に言える子どもは極端に少なくなっている。時代の流れだろうか……
- 野球の楽しさと厳しさのバランスが大切である。指導する以上は責任を持ってその指導について説明できるようにしている。
- 保護者の中には、自分の子供に過保護・過干渉を感じる。
- 選手の行動や言動に気を配り注意するようにしている。
- 子供もいろいろなタイプがいて指導の仕方が難しい時代である。
- 普段からの遊びでも野球をしてきていないので、基本的なルールすらわかっていない。
- 幅広い学年層で活動しているので楽しくやり過ぎると、遊びみたいな状態となってしまう。

★指導者から見た保護者負担（ご意見）

根本的に保護者の人数が少なくなっている。

大会運営…アナウンス 審判 準備

その他…保護者の時間的な制約 合同での調整 送迎 練習試合審判

★チームの保護者当番

お茶出し アイシング 選手の見守り スコア トイレ掃除 送迎 ゴミ回収 審判

★チームでの保護者の負担軽減

○お茶当番の廃止

○審判割り振りは指導者がおこなう

○グラウンド準備や整備は指導者や選手がおこなう

○協議会への報告は、保護者以外の役員がおこなう

○練習の終了時刻をラインで知らせ、迎え時刻の発信をしている

○送迎は上級生の保護者をお願いして下級生の保護者は兄弟姉妹の面倒を見る体制にしている

○負担軽減までには至っていない。

★チームの練習

大会の日程によって、土曜日はたまに3時間を越える事もあるが、子どもの体調には気を配っている。

平日の木曜日の練習は、指導者の仕事の都合が良い為、木曜日に練習している。

土、日、祝と水曜日は4月～10月の放課後。お盆と正月は休みで連休がある場合休みを入れるようにしている。

夏の7月～8月の練習は熱中症対策で午前中で終了するようにしている。

個人的には、子供たちの集中力を考えれば、半日（3～4時間）でも良いのではと思う。

子供の減少や広域化により、どうしても練習時間の確保が難しい。

平日練習等があまりできないため、どうしても休日は長時間となってしまう。

金曜日は翌日の試合の為の調整練習。火、水、木より軽め。

土日は朝早くから1日やっている（練習試合も含めて）

アップから始まり、キャッチボール、守備（ランナー付きノック）、走塁、打撃練習（ランナー付き）をするため、どうしても1日欲しい

平日の練習を指導してくれる指導者がバラバラ

最近は遠い場所へ習い事へ行くことも多い。練習量や中身について分かりやすい各チームのホームページを作り、学校区域にこだわらないようにするべきではないか。

土曜日の大会終わりの翌日には休みといったこともあるが、まず、「翌日休みましょう」といった雰囲気にはならない。

昔と違いほぼ皆親の送迎で練習に参加している。父兄の負担を減らす意味でも最小限の練習時間で活動している。

基本的に土日は半日練習としている。低学年の部員は特に夏場は体力が持たない。

私たちのチームは週5の練習でうまく回っている。（1～3時間）

指導者全員が保護者の為、仕事のスケジュールや負担を考えて週3日で練習している。

子供たちの体力や集中力を考慮し、午前午後のどちらか半日としている。1年生から6年生では体力が大きく違うので、練習メニューや練習時間が一律では無理がある。部員が少人数ですので、できるだけ短時間で能力アップを心掛けている。

土日祝は基本午後練習をしている。

★試合のアナウンス（ご意見）

- アナウンスしている親も1回戦から子どもの野球を観たいはずである。
- アナウンスが聞こえづらく選手交代の際にスコアの記入が大変である。
- アナウンスを覚えるのが難しく保護者の負担になっている。
- 審判についても言えますが、保護者が全員野球を知っているものとして設定されているように感じる。野球を知らない保護者にとっては、非常に負担である
- アナウンスをできる人も限られてくるため、固定化されてしまう。
- 審判のように報酬を出すなどの改善策も検討をお願いしたい。
- 最初だけ部員も喜んでしたが、慣れてしまうとほとんど聞いていない。
- 父兄が少ないので本部に2名とられるとクラブとして厳しい。
- 落ち着いて試合を見せてあげたい。

アナウンスの実施について
準決勝からでよいのではないか。
決勝のみでよいのではないか。
若鷲大会だけでよいのではないか。
全面廃止でよいのではないか。

★合同チーム（ご意見）

- B級、C級はA級になるまでの通過点。A級の合同は仕方ないにしても、B級、C級は大会の時点でチームが成立しているチームだけでやればよいのではないか。
- 合同を組んで試合をすることはばかりにこだわっていたら、うまくない子どもは自分の学校のチームへ入部しにくくなる。大会をすることよりも部員を増やすことが先決ではないか。
- 容易に合同チームを作るのではなく、部員集めに尽力すべきである。
- 6年生になってチームが出来て大会に出ることに主眼を置けば、野球離れも少しは改善するのではないだろうか。
- 今後女子野球が盛んになると思う。いかに野球好きな女の子を探し出していかかが課題ではないか。
- 3クラブと限定せず、部員数との問題もあるので、限定しない方がよい。
- 3クラブ以上の合同を可能にした場合、安易な合同が増えチーム数は更に減っていく可能性がある。
- クラブは勧誘活動を行いなるべく単独チームを維持できるよう努力する方がよい。
- 現在の3クラブ合同で少数クラブは十分救済できている。
- 新入部員の加入は、合同クラブのほうが敷居が高くなり、単独クラブの方が加入しやすい環境だと感じる。
- 部員数が少ない場合は、3クラブ以上の合同もやむを得ないと思う。
- 今後合同チームが増えると思うので、合同も考えてほしい。
- これからますます人数が減ってくる中で、3チームの枠組みが適正だとは思わない。
- 合同チームは各チームのカラーがあるので揉める。4クラブもあれば合併して1チームにしてルールをつくる方が保護者間の揉め事が少ないのではないか。
- 合同は2チームでおこなうべきである。
- 致し方ない正当な理由があれば特に制限は必要ないと思うが、合併や合同チームは少年野球人口の減少に拍車がかかるだけだと考えるので、極力避けるべき選択肢であると思う。
- 3クラブがチーム運営上限界だと思う。
- クラブの数ではなく部員数だと思うから3クラブのままでよいとは思わない。

★学童野球の将来（ご意見）

○保護者の負担を軽減し、マイナスイメージに変化させる必要がある。
○今後女子野球が盛んになると思う。いかに野球好きな女の子を探し出していか……
○準決勝から神島台を使用して、それまでは各小学校とかを活用して地元で子供達の声がかかる会場が理想です。地域活性化も含めての開催を検討してください。
○6年生の選抜チーム対戦を、田辺VS西牟婁で行ってその後は県大会のように県全体でやるのはどうか。
○厳しいチーム、楽しくやるチーム、色んなチームカラーがあります。区域を超えて、自由に途中からでも選べるようにできれば、少年野球も野球の指導も子供に合わせる事が出来ると思います。
○野球をやった良かったと思える子供達を増やしたい。そのためには我々指導者の指導力が大切である。
○学童野球の人口減少は中学や高校などに直結する問題である。それに関わる指導者、関係者同士の意思疎通、定期的な情報交換、意識共有などの場の創造が求められる。
○体験会に参加してくれる子ども達はみんな楽しそうに野球をして笑顔で帰って行きます。しかし家で親にNGを出されれば入部してくれません。その反対を押し切るほどの野球の求心力は今はなく、「少年野球は大変だ」というイメージを変えることも中々難しいです。とにかく特に少年野球は子どもより親の心を動かすことの方が重要ではないかと思えます。○野球の大会や試合に関する役割が「仕事よりプレッシャーを感じる」と言う事を耳にする事も多々ありました。負担を感じた保護者の方は愚痴をこぼします。そして広がっているのだと思います。こういった現実を受け止め改善できればと思います。
○学童野球のボランティア団体でも結成されない限り、大会運営等は学童期のクラブに所属する保護者負担になり、チーム数も減れば大会運営時の保護者負担も今よりも過酷になるかと思えます。
○野球は他のスポーツと比べて時代遅れ感が感じます。昔ながらの軍隊的指導が根強く残っており現代っ子には敬遠されやすい節があります。
○保護者は平成初期生まれの若い保護者さんが増えてきますので、いつまでも昭和のやり方では衰退するよう思います。時代の変化に大人も考え方を変えていくべきかと思えます。

○大会の試合開始時間を考えて欲しい。今のままでは準備等、保護者の負担が大きいです。大会の8：30スタートは、遠方のチームにとって非常に負担となります。日程や時間に余裕のある場合は、少し遅らせるなどの検討をお願いしたい。

★その他

○先日の和歌山ウェイヴスの開幕試合の観戦終了後のイベントについてですが、何をするか等ほとんどのチームがわからずに困っていました。また学童の方も誰もおられず、進行がうまくいかない事がありました。この様なことはウェイヴス側にも迷惑がかかるかと思えますので、またご検討ください。・大きな大会、イベント前には少しの時間でもいいので打合せ等が必要だと思います。
○今の現状を見ていると、最終的にこの地域で8チームぐらいがベストだと思います。